



金子 武蔵
(自民クラブ)

人工知能やロボットなど急速な技術革新への対応は

問 人工知能などの先端技術の活用策について聞かれます。

①身近なところにも普及が進む先端技術が、雇用へ与える影響を懸念する声もある。このような中、市の雇用への影響と今後の雇用戦略は、
②小中学校に一人一台タブレットを導入してICT教育の環境づくりに取り組むべきと考えられているか。

答 ①省力化が進む産業分野における雇用の減少などの影響を踏まえ、将来にわたる新たな産業の創出とさらなる雇用創出が重要と考えている。
今後、産業構造や就業

構造の改革を把握しながら、関係団体などとも連携して成長が期待される企業の誘致や就業支援を行うことなど、持続的な雇用の確保に向けた取り組みを検討していく。

②最先端の技術に対応できる人材を育成するため、子どものころからICT機器に触れ、情報モラルを理解し、活用できるようにすることが必要である。

そのため、小中学校のパソコン室のパソコンをデスクトップ型からタブレット型へと置き換え、5年間で全校に整備するとともに、全ての教室で使用できるようネットワーク環境の整備を進めていく。

その他の質問項目

- ①安全・安心な保育環境の確保に向けた取り組み
- ②熊本地震に対する本市の支援と今後の防災対策への反映
- ③消防団員の災害活動時の安全確保対策
- ④宮ゆず、新里ねぎ、宇都宮産トマトの普及



工藤 稔行
(公明党)

宇都宮牛のブランド力向上と生産者支援を

問 宇都宮牛は、松阪牛や神戸牛と並び、全国で10番目に銘柄指定を受けた歴史ある銘柄牛であり、品質も向上してきている。一方で、生産者の高齢化や生産コストの増大などにより、生産農家は減少傾向にあり、今後は、TPPによる畜産全体への影響も懸念される。歴史と品質を備えた宇都宮牛を市の内外へさらにPRし食べてもらうことと、本市の農業全体の振興につながるかと考える。

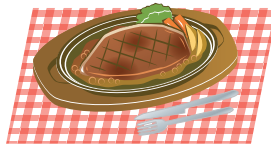
宇都宮牛の更なるブランド力向上と生産者支援の取り組みについて聞かれます。

答 本市では、宇都宮牛の商品価値を高めるため、

全国レベルの品評会において日本一を獲得することを目指し、20年度から「宇都宮牛復興プロジェクト」を推進してきた。

28年度から新たに生産者と飲食店とのマッチングによる販路拡大や、6次化商品の開発・販売促進を支援するなどし、将来的には餃子やジャズ、カクテルのような本市ブランドのひとつとなれるよう取り組んでいく。

生産者支援については、28年度に設置予定の生産者や関係機関などで構成する連絡会議において、検討していく。



その他の質問項目

- ①マイナンバー(通知カードの返戻分、個人番号カードの発行促進)
- ②自治会加入の促進(若者世代への取り組み、高齢者等の自治会脱会防止対策など)
- ③病児保育事業(送迎つき病児保育事業の実施など)
- ④高齢者の外出支援事業
- ⑤不法投棄防止対策
- ⑥こみ減量化



篠崎 圭一
(自民党)

JCHOうつのみや病院経営譲渡問題市の考えは

問 連合自治会主催の説明会で、JCHO側から撤退する考えはないとの意思表示と、譲渡を申請した法人から将来計画の説明があった。

地域では、譲渡しないとの表明にもかかわらず手続きが進められていることや、譲渡決定の手続きが理解できないなど、疑問が多数でている。この状況では、地域の判断として意見集約を図ることは困難であるが、どう考えるのか。

JCHOは、長年地域医療を支え地域にとつて、なくてはならない身近で頼れる病院である。JCHOの役割を踏まえ、市はこの問題にどの

ように対応するのか。

答 旧社会保険病院時代の存続要望の提出経緯などから、地元連合自治会に意見照会をした。

国が示した譲渡手続きが分かりづらいことなどから、様々な疑問や意見が出ており、市としては、これらの様々な意見や思いを把握し国に報告していく。

また、JCHOは地域に根差した中核病院であり、二次救急医療や災害医療などを担う拠点病院として欠かせない存在である。この役割を将来的にも確保することが重要であり、地域や医師会の意見を踏まえ、県とも相談しながら対応していく。

その他の質問項目

- ①災害への備え(避難所の見直しなど)
- ②教育(新教育長としての意気込みなど)
- ③農業政策
- ④特色あるまちづくり(快適な移動ができる乗りかえ、LRT平出町停留場及び車庫の活用など)